

1

「愛の募金」を通して育つ優しい心

報告者 北海道江別市大麻幼稚園 園長 飯沼 美智子 先生

自園でのポイント

大麻幼稚園は平成23(2011)年に40周年を迎え、まんまる保育園を併設した認定こども園となりました。

カトリック信者でありました先駆者の幼児教育に対する熱い思い「愛と和」を教育理念に掲げ、「言葉にならない気持ち」「目に見えない大切な事」「体験や経験からの感動」「作る喜びと完成する喜び」といった心の教育を行っています。その心はどんなに時代が変わっても普遍的な幼い子ども達の心に刻まれ現在も受け継がれています。

ユニセフの活動は、まさに子ども達の心育ての大きなきっかけとなり、私達にとっても大切な活動となっています。



実践

毎年12月に「愛の募金」週間という活動を行っています。この活動は15年前、黒柳徹子さんがユニセフ親善大使として、アジア・アフリカ等を訪れた映像を見た際、現地の子ども達の悲惨な現状を目の当たりにし、幼稚園児でも何か出来ることはないかと園児達と相談し、その結果「おやつを我慢したお金を募金しよう」ということになりました。それ以来、ずっと続いている活動です。ただお父さんお母さんからもらうお金ではなく、いつも自分達が食べるおやつを1回我慢したお金である事に意味があります。

この「愛の募金」週間の前には、先生達が世界中の貧しい子ども達の現状を園児でも理解できるよう工夫しながら話をします。ポスター・絵本・写真集などを使ったり、ユニセフの活動を学んだり、また、みんなが100円で買えるものを考えたり、その100円が現地でどのように役立っているかも伝えていきます。戦争で孤児になってしまう子・薬がなくて病気になって死んでしまう子・勉強したくてもできない子・働くくてはならない子などがいる事を知った園児達は自分に置き替えて痛みも悲しみも感じていきます。

その募金は、北海道ユニセフ協会の方を招いて、直接手渡しています。その際には、現地を訪れた時の話や戦争の話をいただき、実際に地雷爆弾のレプリカにも触るという、大変貴重な体験もさせていただきます。



この活動を通して

たくさんの物や情報で溢れている日本で、何不自由なく生活ができている事を当たり前と思っている子ども達。この活動を通して、自分と同じような年齢の子ども達が働いていたり、病気で死んでいたりする事を知り、驚きや悲しみとして心に残るかもしれません。しかし、自分たちの小さな行動が何人の命を救える事、何人の子が笑顔で学校へ行ける事、また誰かの為になっている事を知ってほしいと思います。

この活動に賛同する保護者の皆様方からも、募金や手紙が届きます。「うちの子が困っている子ども達の為におやつを我慢すると言った時には、とても嬉しかった。」など、わが子の成長を喜ぶ声が聞かれます。「ガチャポンをがまんした」と、自分で書いた手紙を持ってきた子もいます。子ども達のたくさんの優しい気持ちが伝わってきます。

これからも世界中の子ども達に目を向けられる大人になる事を願うと共に、優しい大人になってくれる事を願い、「愛の募金」活動を続けて行きます。

